【いじめ問題への対応】

◆いじめ情報のキャッチと一時対応

情報のキャッチ

- ●いじめが疑われる言動を目撃
- ●生活ノート等から気 になる言葉を発見
- ●「いじめアンケート」 から発見
- ●養護教諭等の同僚教 員やスクールカウン セラーからの報告
- ●保護者からの訴え・ 報告
- ●当該児童生徒からの 訴え
- ●周囲の児童生徒から の訴え・報告
 - *一人で判断せず、組織的 に取り組む。
 - *解決に向けて、正確な事 実確認を行う。

いじめの報告を受けた際、 教職員が陥りやすい傾向

- ●自分はきちんと児童生徒を指導 できているから、自分の力だけで 解決できると過信する。
- ●不十分な事実確認のもと、児童生 徒からの訴えを先入観や一方的 な思い込みで判断しようとする。
- ●いじめが生じたことを自分の指導力不足が原因と思い、他の教職員に知られたくないと感じて抱え込んでしまう。

管理職等への報告

管理職に第一報を入れる。管理職が不在の場合は、いじめ対策委員会に所属する教員に速やかに報告する。

いじめ対策委員会の開催(4月から常設)

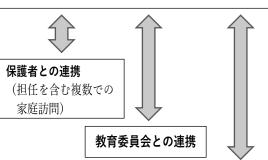
校長・教頭・生徒指導主任・学年主任・担任・当 該学年教員・養護教諭・部活動顧問・スクールカ ウンセラー等により常設し、児童生徒にも周知 する。

事実関係の把握

- ①聞き取るべき内容等、留意すべきことを確認する。(いじめの事実を正確に聞き取る)
- ②事実確認は、被害・加害・関係する児童生徒を個別に同時進行で行う。
 - ※「事実確認」と「指導」を明確に区別する。
- ③聞き取った情報 (発生日時・場所・内容等)を一元化し、「いじめの背景」「子供の心理」等を含むいじめの全体像を把握する。

対応方針の決定

- ①児童生徒の安全を最優先として、緊急度を確認 する
- ②いつ・誰が・どのように対応するのかを決め、全 教職員に周知し、迅速に行う。



関係機関との連携

(児童相談所・警察等)

*適切に一次対応できたかを振り返る。

(参考:和歌山県いじめ問題対応マニュアル)